



2017年5月9日

各位

会社名 株式会社AWSホールディングス
代表者名 代表取締役社長 青木 正之
(コード番号：3937 東証マザーズ)
問合せ先 取締役管理本部長 石津 直幸
(TEL. 03-5803-7339)

**特別損失（事業構造改革費用）・営業外収益（為替差益）の計上
および通期業績予想の修正に関するお知らせ（連結・個別）**

当社は、平成29年3月期（平成28年4月1日～平成29年3月31日）において、特別損失（事業構造改革費用）と営業外収益（為替差益）を計上いたしますのでお知らせいたします。また、最近の業績動向を踏まえ、平成28年6月21日に公表した通期業績予想（連結・個別）を修正しましたので、あわせてお知らせいたします。

記

1. 特別損失の計上

平成29年3月期において、67百万円の事業構造改革費用を特別損失に計上いたします。理由は以下の通りです。

当社は、平成29年3月期のグループの業績進捗を踏まえ、① 利益重視（利益率の高い事業へシフト）、② 成長重視（成長の見込める事業へのシフト）を基本方針として、平成30年3月期開始にあたり、将来の利益創出をより確実なものとするべく、メディカル事業を行う当社連結子会社である株式会社エーアイエス（以下「エーアイエス」）における組織のスクラップ&ビルドを当社主導の下で実施することといたしました。

スクラップ&ビルドを実施するにあたり、エーアイエスが開発、販売を行う各商品・サービスについての収益性を精査した結果、医療業界において先駆者的ポジションを獲得すべく展開していた、院内物流システムソフトウェア「Mighty SPD®」（以下「SPD」）については、平成29年3月期において計画比大幅減収となる見込みであること、および平成29年3月末現在の案件状況などを鑑み、平成30年3月期の売上見込みの蓋然性は認められないものと判断いたしました。

よって、このたび「SPD」の平成29年3月末の無形固定資産計上額67百万円的全額償却を行い、特別損失として計上することといたしました。

なお、連結子会社における特別損失であるため、個別決算に与える影響はございません。

2. 営業外収益（為替差益）の増加

平成29年3月期第3四半期連結累計期間（平成28年4月1日～平成28年12月31日）において、15百万円の為替差益を営業外収益に計上いたしましたが、その後の為替相場の変動により、平成29年3月期の為替差益は17百万円増加し、32百万円となりました。これは、主に海外子会社の外貨建債権債務の評価替えによるものであります。

3. 平成 29 年 3 月期通期業績予想の修正について

(1) 連結業績予想数値の修正（平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日）

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1 株 当 たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	3,434	271	270	167	31.99
今回修正予想(B)	2,992	237	289	88	16.65
増減額(B - A)	△441	△34	18	△78	
増減率(%)	△12.9	△12.5	6.8	△47.1	
(ご参考)前期実績 (平成28年3月期)	2,926	193	232	△4	△0.97

(注)当社は、平成 28 年 10 月 1 日付で普通株式 1 株につき 2 株、平成 29 年 4 月 1 日付で普通株式 1 株につき 2 株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、平成 28 年 3 月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1 株当たり当期純利益金額を算定しております。

(修正の理由)

・売上高

グローバル事業における為替相場が円高に推移したことによる外貨建て売上高の円換算額の見減りおよび新規案件の客先都合による立ち上がりの遅延、メディカル事業における「SPD」および「CPC トレーサシステム導入コンサル支援」等の新サービスの販売不振により、平成 29 年 3 月期の売上高は平成 28 年 6 月 21 日公表の業績予想を 441 百万円下回る 2,992 百万円となる見込みです。

・営業利益

営業利益は前述のメディカル事業における「SPD」および「CPC トレーサシステム導入コンサル支援」等の新サービスの販売不振により、同業績予想を 34 百万円下回る 237 百万円となる見込みです。

・経常利益

経常利益については、為替相場が円高に推移したことによる海外子会社の人件費等のコスト圧縮により、同業績予想を 18 百万円上回る 289 百万円となる見込みです。

・親会社株主に帰属する当期純利益

「1. 特別損失の計上」において記載した特別損失の計上と、海外子会社における業績拡大に伴う税負担の増加に伴い、親会社株主に帰属する当期純利益は前回発表予想を 78 百万円下回る 88 百万円となる見込みです。

(2) 個別業績予想数値の修正（平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日）

	売 上 高	経 常 利 益	当 期 純 利 益	1 株 当 たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	880	32	9	1.75
今回修正予想(B)	992	21	57	10.90
増減額(B - A)	112	△11	48	
増減率(%)	12.7	△34.1	532.5	
(ご参考)前期実績 (平成28年3月期)	845	△54	△73	△15.04

(注)当社は、平成 28 年 10 月 1 日付で普通株式 1 株につき 2 株、平成 29 年 4 月 1 日付で普通株式 1 株につき 2 株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、平成 28 年 3 月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1 株当たり当期純利益金額を算定しております。

(修正の理由)

- ・売上高

平成 29 年 3 月期の売上高は、売上計上している国内子会社からの配当金が計画を上回ったことから、平成 28 年 6 月 21 日公表の業績予想を 112 百万円上回る 992 百万円となる見込みです。

- ・経常利益

経常利益は、営業外収益として計上している海外子会社からの配当金が計画を下回ったこと、および IR 関連費用および会計監査費用の支出が予想を上回ったことにより、同業績予想を 11 百万円下回る 21 百万円となる見込みです。

- ・当期純利益

連結納税制度導入に伴う連結子会社相当分の税額の軽減により、同業績予想を 48 百万円上回る 57 百万円での着地となる見込みです。

(注) 上記の業績予想数値は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

4. メディカル事業の今後の見通しについて

このたび特別損失を計上いたしましたメディカル事業につきましては、エーアイエスにおける「SPD」事業の見直しをはじめとするスクラップ&ビルドの実行を最重点項目と捉え、平成 29 年 4 月から「SPD」専任の営業・開発担当部署を廃止し、余剰となった人材資源を、我が国の政府の成長戦略において強化対象とされている医療ビッグデータの分析事業等、利益率の高いサービス、商品の営業・開発業務に再配置することにより、より収益の向上が見込まれる事業モデルへの転換を図ることといたしました。

今後も、安定したストック型ビジネスの拡大に加え、更なる当社グループシナジーを顕在化させるべく、メディカル事業においても当グループの優秀なフィリピン人エンジニアを活用した「効率的な開発体制の構築」と、これまで培ってきたコア分析技術および医療データが取り扱える有利なポジションを活かした「医療ビッグデータ市場」への本格的な参入を行うとともに、医療ビジネスに特化した大手企業との「戦略的提携」を視野に、企業価値の向上を通じた株主価値の向上を図るべく更なる経営構造改革を進めてまいります。

以 上